



スイカ

芝山経済センター
営農指導員 伊藤 統之

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



春レタス

販売開発部営農振興課
営農指導員 松本 有希子



播種・育苗

セルトレイへ播種する場合は、128穴または200穴を利用します。レタスは、発芽において光を必要とする作物ですので、覆土はごく浅く、コートが見えるか見えないか程度が良いでしょう。育苗初期の灌水は少量とし、天候に合わせて1日数回程行い、乾かないようにします(トレイ当たり約0.5リットル)。発芽が間近となった頃に被覆資材をはずし、徒長させないようにします。定植適期の苗は本葉3枚程度、葉長は4〜6センチが目安です(写真①)。育苗日数が長くなり定植が遅れてしまうと、定植後に生理障害や病害が発生しやすくなります。下葉が黄色くなった苗を定植するのは避け、適期に植えてください。



写真① 定植適期のレタス苗

定植

排水性・保水性が良い圃場を選択しましょう。レタスは石灰(カルシウム)を要する作物ですので、不足と思われる圃場では、「畑のカルシウム」などの石灰資材の施用が必要です。定植前の土壌診断がお勧めです。また、気温が低い時期に定植期を迎えますが、極端な寒さに当たると、活着が不揃いになり、その後の生育にも影響が出やすくなりますので、定植日は、天気予報を確認して、寒波が当たらないようにしましょう。

定植後の管理

レタスの栽培ポイントは、外葉を大きくすることです。外葉が大きくなると球も大きくなり、結球し始めてから生育では、外葉を大きくするような栽培管理に努めましょう。結球してきたら、日中のトンネル内の気温が15〜20℃になるような換気に努め、夜間は気温が下がるようであれば、べたがけをしましょう。

病害虫防除

病害虫が発生しやすくなるのは、外葉が大きくなり、結球し始めてからです。外葉が大きくなってからでは、薬剤がかかりにくく、効果が劣るので、



写真② レタスのべと病写真(カネコ種苗(株)より)

防除は外葉が大きくなる前に、予防散布を心掛けて行いましょう(表①)。近年、問題になっている病害として、べと病があります。症状としては、葉の裏側に白色の胞子をつくり、葉の表側は葉脈に沿った色抜けが起こります(写真②)。トンネル内の湿度が高いと病害が発生しやすくなりますので、外気温が低くても、トンネル内の湿度が高い場合には、寒さが球にあたらぬ程度に換気を行いましょう。昨年度は、2〜3月にトンネル被覆が剥がれるほどの強風が続き、軸が傷つき、その後、軟腐病などの病害の発生が見られました。風が収まった後に、病害予防のために薬剤散布を行います。

表① 春レタスの病害虫防除薬剤

病害虫草名	薬剤名	倍率	使用時期	総使用回数
菌核病、灰色かび病	スミレックス水和剤	1000~2000倍	7日前まで	5回
菌核病、灰色かび病	アフエットフロアブル	2000倍	前日まで	3回
べと病	レーバスフロアブル	2000倍	7日前まで	3回
菌核病、灰色かび病、べと病	アミスター20フロアブル	2000倍	7日前まで	4回
腐敗病・軟腐病	スターナ水和剤	2000倍	7日前まで	2回

播種・育苗

苗の良否は、定植後の生育において大きく関わるため、重要な工程となります。

穂木の発芽を揃えるには、加温前の準備が必要です。使用する培土は窒素分が少ないもの、水稻育苗箱への播種量は300粒程度にしましょう。水稻育苗箱以外の物を使用する場合は、培土の厚さを3〜5センチ程度にしましょう(厚い場合、温度の伝わりが悪く、発芽揃いが悪くなるため)。

播種後、軽く鎮圧し十分に灌水して新聞紙をかけます。この場合、一昼夜、床の温度を上げずに放置します(種子内に水分が少ない場合、子葉の奇形や発芽の不揃いの原因となるため)。播種後2日目からは温度を25〜28℃に上げます。発芽してきたら新聞紙を除去し、乾燥させながら徐々に温度を下げ、地温20℃を維持し、空間温度が25℃を超えないように管理します(温度が高くと、軸が伸びるため)。

台木の品種選定は、圃場条件により異なりますので左記を参考にしてください。

●ホモプシス根腐病の発生が予想される圃場：南瓜台木の利用(汚染度が高い場合、土壌消毒が必要)

例：かがやき

●生育前半から草勢が強い圃場…
例：かちどき2号

●生育後半に草勢が特に弱くなる圃場…
例：つわもの

接木では、良質な穂木・台木を選びます。穂木では、本葉がわずかに見え始めた頃が接木の時期となります。台木は、接木前に灌水を控え、接木に備えます。接木後は昼が28℃、夜が20℃、床温度は27℃を目安に管理します。

栽培管理のポイント

定植は、地温18℃を確保してから行います。交配の節位は18〜20節を目安で行います。着果を良好に行うためには、換気を弱めて葉が柔らかい状態に保つことが重要です。

黒小玉スイカ [Cucurbita pepo] の栽培(3号)

黒小玉スイカの栽培は、7月収穫を中心に行われています。しかし近年、7月期の気温が高いため、良質な品物を確保する上で草勢の維持が重要となります(写真③)。

栽培に当たって、大玉に近い施肥を行うこと、整枝は5本整枝4果どり(草勢が維持できれば5本整枝5果どり)で行いましょう。6月下旬〜7月は高温



写真③ 黒皮が目立つ「ひとりじめBonBon」

期となり、水分を必要とする時期です。ベト病内のチューブ灌水、通路灌水を必要に応じて行いましょう。また、高温期の栽培のため、褐色腐敗病、炭そ病、アブラムシ、ダニ等の病害の発生に注意しましょう。収穫時の注意点としては、雨天時の収穫は行わないことです(収穫後、つるの切り口が乾かず、輸送中や市場の到着時点で腐敗する原因となる)。

9月の分析経過について

合計10点

サトイモ	1点
短根ゴボウ	1点
抑制マト	3点
ミニトマト	1点
玄米(ちばエコ)	1点
キュウリ	1点(インショップ)
ゴボウ	1点(インショップ)
ほうれん草	1点(インショップ)

残留農薬分析点数
多成分一斉分析

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 …… 合計4点